

## キーワード 「次代に生きる子供を育てる」「感性を磨く」

### I 第六小学校の教育のねらい

#### 次代に生きる子供を育てる

「20年後には、今の仕事の約47%の仕事がなくなる。」(オックスフォード大学：マイケル・A・オズボーン准教授)、「国内の601の職種について、人工知能やロボット等で代替される確率を試算したところ、日本の労働人口の約49%の職業において、それらに代替することが可能である。」(労働政策研究所・研修機構『職務構造に関する研究』より)とされています。つまり、およそ半数の人の仕事は、技術的にAI(人工知能)やロボットに代替可能であることを示しています。

科学技術が進展していけば、それに対応する新しい職業も生まれると考えられますが、これから生きていく子供たちには、「生産年齢人口の減少」「グローバル化の進展」「AI(人工知能)の発達」「科学技術の進展」「急激な変化への対応」という課題があることは明らかです。(2035年問題)

このような背景から急速かつ激しく変化するこれからの社会を自らの力で切り拓き、生き抜く力を身に付けた子供の育成が求められています。そこで、第六小の教育のねらいを「次代に生きる子供を育てる」としました。

### II 目指す学校像、目指す子供像、期待する教師・大人像

#### ○目指す学校像 『子供の幸せを育む学校 ～今を輝き、明日の笑顔を創る～』

- 子供が安心して通い、楽しく生き生きと過ごし、自分のよさが発揮できる学校
- 子供が主体的に学び、知・徳・体の調和の取れた人格を育てる学校
- 家庭・地域と目標を共有し、共に子供を育てる学校

「教育の基盤は信頼に支えられた人間関係」です。学校は、子供の幸せのために全教職員で、子供たちを励まし支え、努力し、創意・工夫を重ねていきます。また、家庭・地域との連携・協力を一層重視し、地域に開かれた教育活動を展開していきます。

合言葉は「笑顔輝く六小の子 みんなで育てる六小の子」

#### ○目指す子供像 『人間味あふれ、自ら考え、自ら学ぶ子供』

##### 「人間味あふれる」

人間としての幅が広いこと。相手の存在を認める、相手の考えを理解しようとする事。

##### 「自ら考える」

まず、自分で考え、判断し、行動し、反省すること。PDCAサイクルを身に付けていること。

##### 「自ら学ぶ」

事物や自然、人から学ぶ姿勢をもち、直接体験、間接体験を多く経験すること。

#### ○期待する教師・大人像

#### 感性を磨く

人間味あふれる子供を育てようとするには、私たちが人間味あふれる教職員として子供の前に立つことが大事です。教職員も感性を磨きつつ、期待する教師・大人像10項目のうち、自分が何項目達成できているのか確認をしながら、教育指導を展開していきます。

### III 中期経営目標(令和2年度から令和4年度)

#### ○インクルーシブ教育の推進

ユニバーサルデザインの授業を積極的に導入し児童一人一人のよさを生かし伸ばす。